

Market Flash

2020年5月13日(水)

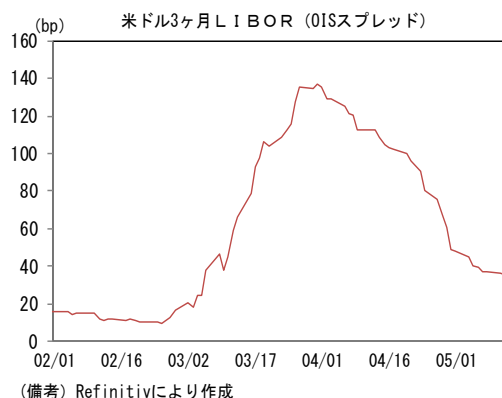
目覚めの一食 経済活動再開の初期の兆候

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査
主任エコノミスト 藤代 宏一 (TEL:03-5221-4523)

- ・日経平均の20,000円超定着には、3ヶ月程度の時間を要するだろう。
- ・USD/JPYは、先行き12ヶ月105程度で推移しよう。
- ・日銀は現在のYCCを長期にわたって維持するだろう。
- ・FEDはゼロ金利政策下で資産購入を継続するだろう。

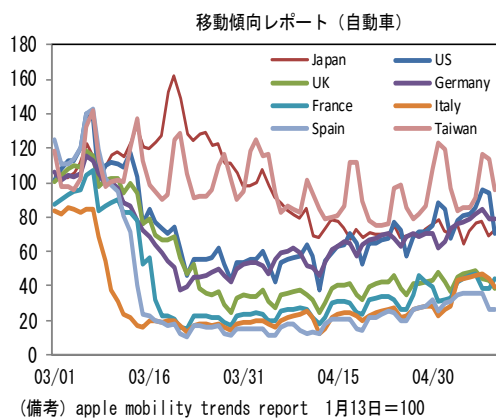
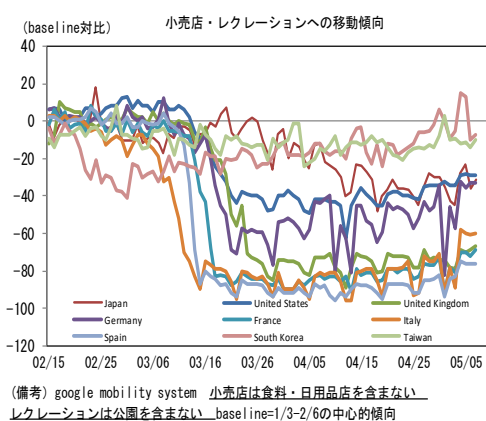
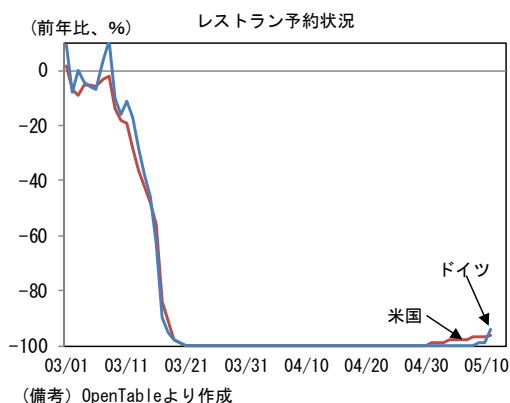
<#リアルタイムデータ#日常が戻りつつある>

- ・前日の米国株は下落。NYダウは▲1.9%、NASDAQは7日ぶりに反落し▲2.1%で引け。経済活動再開の期待が高まる反面、新型コロナウイルスの感染第2波が警戒された。VIXは33.0へと上昇し3日ぶりに30超え。クレジット市場はIG（投資適格）が堅調、HY（投機的格付け）が軟調。
- ・米金利カーブはブル・フラット。10年は0.665%（▲4.5bp）、30年は1.370%（▲4.6bp）で引け。短期金融市場ではドル3ヶ月LIBOR（OISスプレッド）が低下。ドル流動性は正常化が完了しつつある。為替はUSDがやや堅調。USD/JPYは米長期金利低下を横目に107前半へと水準を切り下げ、EUR/USDは1.08半ばへと反発。商品はまちまち。WTI原油が25.87ドル（+1.64ドル）へと上昇したほか、金は1706.8ドル（+8.8ドル）へと上昇。銅は5256.5ドル（▲0.5ドル）と概ね横ばい。



- ・世界的に経済活動再開への期待が高まる状況下、その動きを逸早く察知する観点から公表頻度が高く速報性に優れているデータに注目したい。4月の米雇用統計がそうであったように月次指標のオフィシャルデータはやや鮮度に問題を抱えている。

- ・米国では多くの州で厳格な外出制限が継続している反面、一部の州は段階的に経済活動が再開され、ここ数日は飲食店にもその動きが波及している。レストラン予約サイト、オープンテーブルのデータをみるとテキサス、ジョージア、フロリダ、アリゾナ、サウスカロライナ州等の制限が緩い地域で5月入り後の予約状況に動きがみられる。5月11日のこれら地域における予約状況は前年比8割減程度となり米国全体でも前年比▲96%となった。また一部地域で飲食店の営業が再開されたドイツでも前年比▲94%へと100%減から脱け出し経済活動再開の初期の兆候が認められている。今後、NY、ロサンゼルスなど大都市で制限の緩和が想定されていくなか、こうしたリアルタイムデータはその反発力を掴む一助となる（データが取得できる国は米・英・豪・加・独・墨・愛）。
- ・またGoogleのグローバル・モビリティ・レポートも注視したい。地図アプリの検索結果等を基に作成されたこのデータによれば、5月7日にかけて世界的に小売・レクリエーション関連施設（スーパーや公園等は含まない）への外出が持ち直し傾向にある。Appleの移動傾向レポートでも同様のトレンドが示されており、特に自動車による外出が持ち直している。これらデータは「日常」が戻りつつあることを映し出している。
- ・上記のとおり米国では一部の州で制限が緩和されつつあるが、そうした動きは欧州でも広がっている。ドイツでは5月中旬から飲食店を含む全店舗やホテルなどの営業再開が許可される見込みであるほか、フランスでは5月11日から小売店の営業が再開し外出許可証がなくとも近距離の外出が可能になり、イタリアでは5月18日から小売店の再開が予定され6月1日からはレストランや理髪店などの営業も認められる見込みである。日本は政府の緊急事態宣言の下、人々の自粛によって外出が控えられており経済活動は大幅に停滞したままであるが、緊急事態宣言が解除され自粛要請が緩和される際には、こうしたデータを注視したい。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。